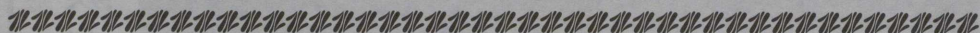


全 仏



No. 363

1990. 11



起工式当日のマヤ堂遠景

(9月5日、マヤ堂に集まった約千人の関係者)

—撮影 Don Farber—



財団
法人

全日本仏教会

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

《テーマ》 いま ともしびを!!

——現代社会の繁栄と荒廃——

第34回全日本仏教徒会議

大阪大会 フェスティバルホールで開く



約二千五百人を集めて開かれた大阪大会

第三十四回全日本仏教徒会議大阪大会（全日本仏教会・大阪府仏教会主催）が、去る九月十一日、大阪・中之島の大阪フェスティバルホールを会場に開催された。「花と緑の博覧会」も開催期間を一月残すばかりで、最後の盛り上りを見せる大阪に、府内を中心に全国から約二千五百人が参集。当地では、昭和三十七年の第十回大会に続いて、二回目の開催である。

大会のテーマは「いまともしびを——現代社会の繁栄と荒廃——」。大会前日には、開催中の花博会場いのちの塔前広場で、こどもカーニバルを開催。府内の仏教関係幼稚園児約千名が鼓笛隊、遊戯等を披露した。

大会当日は、記録的な残暑の中、正午から式典が開催。平興誓大会実行委員長の開会宣言に

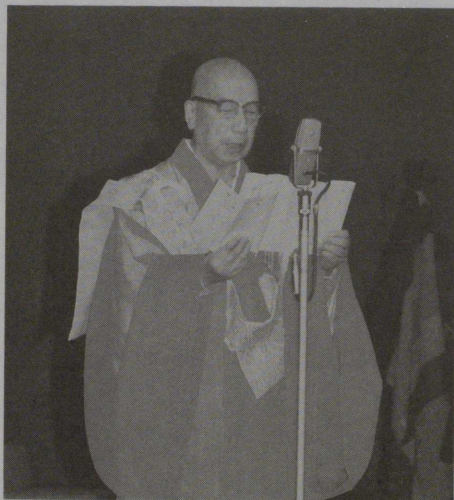
続いて、献灯、三帰依文唱和、声明（本大会で初めて統一経典として採用された「涅槃經中の偈」、大谷女子大・短大のコーラスによる大会讃歌が流れ、その途中、全世界に向けてメッセージが読み上げられた。

続いて、春見文勝大会総裁（全日本仏教会会長・臨濟宗妙心寺派管長）、鈴木龍珠大阪府仏教会会長が挨拶、来賓として郵政大臣の中山正暉衆議院議員をはじめ、岸昌大阪府知事、西尾正也大阪市長が、それぞれ祝辞を述べた。

その後、豊島今雄大会広報委員長が、現在進行中のイラク紛争を憂慮した緊急動議を読み上げ、満場の拍手をもって採択された。

休憩をはさんで第二部は、大谷光真浄土真宗本願寺派門主の記念法話で始まった。大谷門主は花博にちなみ、様々な仏教経典に見られる花のとえを引用しながら法話を行い、会場の参加者たちは熱心に聞き入っていた。

それに続いて、直木賞作家の津本陽氏が、「現代社会の繁栄と荒廃」の大会サブテーマに沿って基調講演を行った。津本氏の話は、幼少時における仏教との関わりから始まり、自分自身の戦争体験とその後の作家活動まで及び、「現代社会の繁栄の底に見られる現代人の心の荒廃を、いかに救うかが宗教者の役割」と話を結んだ。



あいさつする春見大会総裁

基調講演に引き続き、シンポジウムに入った。映画監督の松林宗恵氏の司会で、パネリストとして、津本氏、金岡秀友東洋大学教授、歌手のさだまさし氏が参加。

シンポジウムでは、津本氏の講演をもとに日本人の文化論を展開。後半では、現在話題になっている臓器移植をめぐって、四氏は活発な議論を行った。その中でも特に金岡氏の「脳死と心臓死をめぐる死の判定を、なぜこんなにも急ぐのかという点を危惧する」との発言は、注目された。

そして最後には、司会の松林氏が「現代社会における日本人の生活は、もっとももっとと欲望を高めるばかり。これ以上、何が欲しいというのだろうか。これからは仏教のおしえによって、もっとももっとと慎ましく生きて行く必

要があるのでは」と話を締めくくった。

シンポジウムに続いて、アトラクションでさだまさし氏が「トーク&ミュージック」を行った。さだ氏独特のユーモアあふれる話と歌を、参加者は充分に堪能していた。

春見大会総裁あいさつ

花と緑の博覧会が行われております、ここ大阪におきまして、第三十四回全日本仏教徒会議・大阪大会が開催されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今大会は、「いまもしびを」をメインテーマに、またサブテーマには「現代社会の繁栄と荒廃」を掲げておりますが、テーマといい、場所といい、まことに当を得た大会ではないかと存じます。

今からちょうど四十五年前、敗戦からようやく立ち上がった日本は、それこそ文字通り「無一物」からの出発でありました。「豊かになりたい。ただ豊かになりたい」この一念が今日、日本の経済を世界の頂点にまで上らせたのだと思います。お陰さまで私共は、物質的には何一つ不自由のない、豊かな生活ができるようになりました。花にたとえれば、今がちょうど満開といったところではないでしょうか。

大会の最後には、増田貞圓大阪府仏教会副会長が閉会の辞を述べ、大盛会のうちに終了した。大会終了後、全日空ホテルシェラトンを会場に、六時から祝賀パーティーが開催され、全ての日程を終了した。

しかし最近になって私共は、経済的な繁栄や物質的な豊かさのみが、幸せをもたらしてくるものではないことによりやく気づき始めたのです。家庭や学校、あるいは職場や社会で、心の荒廃を象徴するような不幸な出来事や事件が頻繁に起こっております。

花の博覧会に限らず、花が咲けば人は集まります。花はその美しさ故に人の心を迷わすこともあります。しかしどんな美しい花でも、枯れて落ちれば結局は塵となってしまうのです。大切なことは、咲いた花がどのような実を結ぶかということではないでしょうか。

法句経に「おのれこそ おのれのよるべ おのれを措きて 誰によるべぞ よるべぞ獲ん」という偈があります。

今大会を契機に、おのれの心の中に、決して消えることのない仏のもしびが、光り輝いているのだという自覚を互いにしっかりと持ち合い、美しく咲き誇っている私共の心の花が、大きな、大きな実を結ぶことを念じ、ご挨拶とさせていただきます。

全仏理事会を開催

マヤ堂修復事業など審議

去る十月十五日、午後二時から、東京グランドホテルで本会の理事会が開催された。

白川理事長の導師で三帰依文を唱和、理事長挨拶につづいて、議長に白川理事長、議事録署名人に、細川信元、柳下隆侃の両師を選んで議事に入った。

議案第一号「平成三年度予算編成の基本方針について承認を求める件」

剛山財務部長が基本方針を詳細に説明の後、原案通り承認された。

議案第二号「ルンビニー園マヤ堂修復工事の今後予想される諸問題について意見を求める件」

久米原国際文化部長及び、川井ルンビニー委員長が、最初に去る九月の調印式及び、マヤ堂起工式について、スライドを写しながら説明した。

その後、様々な問題点について、出席者から活発な意見が表明された。

議案第三号「ルンビニー園マヤ堂修復事業の勧募について承認を求める件」

剛山財務部長が「ルンビニー園復興補正予算書」をもとに詳細に説明、原案通り承認された。

議案第四号「参与会規則の承認を求める件」川島総務部長より説明、字句を一部検討することを条件に、承認された。

報告事項「信教の自由に関する委員会答申について」

野生司社会部長及び、信教の自由に関する委員会の高橋副委員長が報告を行った。

その後、出席者から活発な意見が出された。**事務総局各部報告**

各担当部長より、報告が行われた。

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 **決田商店**

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

全仏手帳

一九九一年版

申込み受付中

全日本仏教会では、左記要領にて、「全仏手帳」を発行します。部数に限りがございますので、御注文はお早めに。

内容 三帰依文、四弘誓願、宗門聖日、加盟団体役員住所録その他

サイズ 9×14 cm

定価 六〇〇円 (送料実費)

申込先 東京都港区芝公園四一七―四

全日本仏教会

「全仏手帳係」係

税制改正で要望書

白川良純理事長名で提出

本会は、九月二十九日付けで、左記の「要望書」を自由民主党政務調査会、全国組織委員会あてに提出した。これは去る九月十七日の本会税務委員会で内容が検討され、白川理事長名で出されたものである。

要 望 書

平成三年度税制改正の審議にあたり、本会は左記の点を強く要望致します。

〔要望事項〕

- (一) 公益法人の営む収益事業の範囲の拡大
- (二) 公益法人の営む収益事業に対する法人税率の引き下げ
- (三) 公益法人の預貯金等より生ずる果実に対する非課税制度の堅持

〔理由〕

宗教法人が本来、人心の安定をはかり、教育、文化、社会福祉、その他公益の増進に寄与することは、宗教が人間の心の救いの構造として存在する以上、当然の帰結でございます。

宗教法人法第六条をまつまでもなく、宗教法人が営む収益事業は、本来営利を目的とし

たものではなく、宗教活動を円滑ならしめるためのものがございます。

しかるに、宗教法人への課税強化は、その活動を縮小させ、宗教のみならず精神文化の高揚に著しい支障をきたすと共に、宗教そのものの存在すら危うくすることにもなりかねません。

もとより、国家財政に協力することは、宗教法人として当然のことでございますが、「税制改正」の名のもとに、国家権力が憲法に保証されている「宗教の自由」、「政教分離」の原則を脅かすことを懸念するものであり、このような税制改正には、宗教者として絶対に容認できるものではございません。

宗教法人の特性及び歴史的慣習を十分斟酌され、ご審議下さいますようせつに要望申し上げます。

哀 悼

色井 秀讓 (前全仏副会長)
十月五日、八十四歳で遷化
天台真盛宗管長

三三三 事務局録事

—十月—

一日 ルンビニー委員会

八日 局内会議
九日 国際委員会

十一日 12・6宗教者連絡会出席
十五日 局内会議

理事会 (東京)

十九日 小峰順誉前智山派管長本葬儀参列
二十一日、二十五日 世界仏教徒会議ソウル大会

二十二、二十七日 ネパール現地調査

二十七日 「修証義」公布百周年記念行事出席

三十日 囲碁大会

三十一日 同和委員会

日本の心を伝える



寺院内陣荘厳・仏具納骨堂工事

はせがわ

西日本本部 / 福岡市博多区博多駅前日生ビル ☎092(472)1621(代)

東京本部 / 東京都中央区銀座共同ビル新銀座 ☎03(541)3891(代)

寺院専門工場 榑長谷川仏具工事 / 直方市大字中東明日香台 ☎09492(4)7211(代)

第九回「業・旃陀羅問題」研究会

業の問題

龍谷大学教授 浅井成海

第九回「業・旃陀羅問題」に関する研究会は、去る九月十七日午後一時から、浄土真宗本願寺派会議室に、約六十人の出席者を集めて開催された。龍谷大学教授・浅井成海師が「業の問題」をテーマに、要旨次のような発表を行った。

親鸞聖人の教えにおいては、浄土三部経の『無量寿経』を中心の経典とする。

この経の下巻に五悪段という、大変倫理的なことが説かれているところがある。しかし、第一悪の中に「過去、様々な悪をなした者は、この世でそういう果を受けていくんだ」と、自分の問題も、体に障害を受けるといふ問題も、それは過去の因による、だからこの世で恵まれた体や恵まれた生活を送る者は、過去に優れた善根を積んだからであると、このように説かれている箇所がある。

『無量寿経』で親鸞聖人が説かれた中心は、第十八願の本願の救いだ、それとは切り離された形で、江戸時代から五悪段が布教され、講義されてきている。それが差別を生み出す大きな原因となった訳である。

そこで、西本願寺では『浄土真宗聖典』注釈版を出版した際、補注を設け、次のように述べている。

社会的矛盾や差別は歴史的社会的につくられたものであって、それによってもたらされた不幸を被害者である本人の責任に転化し、その不幸をひきおこした本當の要因から目をそらさせてしまうような業論が説かれるならば、それは誤りであるといわねばならない。

浄土真宗では『大経』の「五悪段」は、本願成就文の逆誘抑止の教意を広く説かれたものと領解されてきた。すなわち、未信者に対しては、悪を誡めつつ自身の罪悪を知らしめて本願の念仏に導き、信者に対しては、機の深信の立場から、自身をつねに顧みて、五悪をつつしみ、五善を勉めるように信後の倫理生活を勧誡されたものとうけとめられてきたのである。このように宗教的倫理を勧めたものであるかぎり、現実を過去によって正当化することを目的として説かれたものではなく、現実の行き方を誡めて、正しい未来を開くための教説であるとしなければならない。ところがそのことを強調するために功績と褒賞、犯罪と刑罰というような因果の関係をすべてにおよぼすという論理が用いられている。たしかにわかりやすい倫理説である。しかしそれはどこまでも悪を誡めて善をすすめるとい

う本来の目的にそって領解されなければならない。もしそうでなくて現実に存在するさまざまな社会的な差別事象や、個人的な不幸不幸を説明するための教説と受けとるならば、すべての不幸は、その人の過去世の悪業の報いとしての罰であり、すべての幸福は過去の善行に対する褒賞であるという固定的な現実理解を生み出し、教説の本意から外れていくことになるであろう。

以上のように、解説が加えられている。親鸞聖人は、過去の因によって現在の人間の罪業の軽い者、深い者というような見方はなく、人間存在そのものが罪業の存在であるという人間観をもっている。

『無量寿経』の中に、「五逆罪、謗法罪」を犯した者は、本願の上では除かれると書いてあるが、聖人は「五逆罪、謗法罪」を犯した者こそ、救いの目当てであると読み、「悪人正機」といわれる人間の見方を展開していく。業については同じ経典の中にしばしば説かれている「大願業力」の働きによって、人間の悪なる存在が解放されていく、いかなる業の問題からも解き放たれていくんだ、そういう見方をとっていく訳である。

親鸞聖人の業論は、大きく三つに分けてみることができる。その第一が、仏の業、如来の業、第二に「浄土往生の因行について述べ



発表される浅井教授

るもの」、そして第三が、業・宿業にかかわってくる、「人間の行業について述べられる」ところである。

聖人は、救いの理論の中で業を論じている。もつというなら信心の筋道、信心の内容として業を語っているといえる。『浄土和讃』に「清浄光明ならびなし遇斯光のゆえなれば、一切の業繫ものぞりぬ 畢竟依を帰命せよ」とある。阿弥陀如来を十二の光で表され、「この光に遇っていく者は一切の業の繫縛から除かれていくんだ、解き放たれていくんだ」と説いている。

親鸞聖人の場合は、光に遇うといっても、それは念仏の教えに遇っていくということであり、念仏申していく生活の中で解き放たれていくという意味である。ところが、業の繫縛から解き放たれていきつつ、一方ではますます悪業・煩惱を重ねていく身であることも

強調されていく。それが、凡夫とはどういう者かを示した「無明煩惱われらが身にみちみちて、欲もおほく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむ」という、有名な言葉であり、臨終の一念にいたるまで我々は無明煩惱から解き放たれていくことができない、と説かれている。

非常に矛盾しているようだが、実はますます自己の煩惱性を見据えていき、罪業の深さを見つめていくことによって、本願力の働きの中でそれから解き放たれていくという、業を超えて行く世界、業の本当の意味を見いだしていく世界、そういうものを説いているということになる。

人間は本来煩惱の身であるから、深くそこを問い詰めていく限り差別性を抱えている存在であり、そのことから目をそらしてはいけない。それは自分で自分の差別性に気づかされていくだけでなく、念仏申していく宗教的な生き方の中で、徹底的に自分の差別性を見極めていく世界である。しかし、差別性を見極めていくとは、それを許すのではなく、それを認めない。それを何としても乗り越えて生きていく世界、親鸞聖人の業の見方は、そういう世界をこの本願力の念仏申す生活の中に見ていられる、といえる。

次に宿業の問題だが、親鸞聖人の著述の中

では、宿業という表現は『歎異抄』にしか出てこない。『歎異抄』第十三条に、様々な条件の中で、いかなる振る舞いにも及んでいくのが人間存在なのだと言われ、そこにこの宿業という言葉が出てくる。そこで、聖人の宿業観をまとめると、次のようになる。

①宿業は信心をぬきにしては語れない。②宿業は因果応報を説くのではない。それは三世を貫く悪業の身を深信することによって信じられるが、聖人の三世観は、「今世のここにある私」の存在を明らかにするための見方であり、曠劫より悪業をかさね、未来永劫にかけて悪業の身であるという、私の存在を徹底的に明らかにするものである。過去の悪業の報いが今ここに現れたから反省し、悔い改めなさいと説くための三世観ではない。時を客観的に固定化し、過去、現在、未来の流れに沿って時間をみるのでもない。今世に、過去世も未来世も重ねてみるのである。③宿業は一因一果で語るのではなく、縁起の理論に基づいて語る。網の目のような原因や条件のすべての組み合わせで宿業が語られる。網の目のようにかみ合わされた複雑な原因や条件は、一因の過去の行為から、一果がひき出されるというような単純な表現であらわすことはできない。④宿業は自己や社会への厳しい問いかけを含む。

人類を宇宙におくりこんだ科学が、いま、金融を変える。



分析に科学を。予測に科学を。投資に科学を。

勤や経験だけに頼る時代から、
科学手法を応用する時代へ。
いま、金融の世界は大きく変わろうとしています。
その最先端をゆくのが山一の「情報科学」です。
地球を駆けめぐる金融の流れは、
情報とその分析、さらに予測により決定されます。
山一では高度な金融理論と最新の
コンピュータテクノロジーを駆使して対応。
投資においては管理されたリスクのもとで
最大のリターンをめざしています。
山一の「情報科学」は、
さまざまな商品の開発に役だっている他、
金融のあらゆるニーズにお応えしています。
「情報科学」。これからの山一と
金融を語るキーワードです。

情報を科学

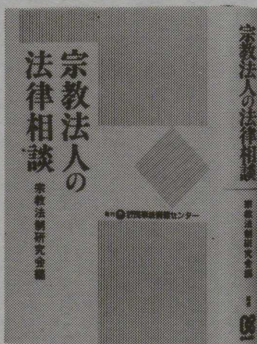
山一証券

〒104 東京都中央区八重洲2の4の1
☎(03)276-3181(代表)

宗教法人の法律相談

宗教法制研究会 編

A 5 判 上 製 ・ 500 頁 ・ 定 価 6, 200 円



- 宗教法人をめぐる主要な法律問題212問を6章33節に整序し、相談形式による簡明かつ平易な回答及び解説を施した関係者待望の書。
- 全仏顧問弁護士・長谷川正浩師をはじめ、宗教法制研究会会員の執筆に加えて、行政担当者等が、永年の研究と豊富な実務体験を踏まえて懇切に解説した類書のない実務書。

発行 **社団法人 民事法情報センター**

全仏へ直接、お申込みいただきますと、1割引(5,580円)になります。